

研修会

種の不思議

栗山 忠俊 (四街道市)

日 時：2015年11月28日（土）10～14時 天候：晴

会 場：四街道総合公園

参加者：37名

担 当：栗山 忠俊、協力：総合公園の植生調査の会

種の観察には少し遅くなってしまいましたが、好天にめぐまれ、参加者の皆様楽しまれましたでしょうか。

種子散布のしくみ、種の不思議について

・カエデの種

タネの表面に走る何本もの細い隆起にも目的がある。落下からヒントを得た新しい風車で、従来のプロペラ型風車に比べ、低風速で高効率・高回転・高トルクを実現に成功した。(福島大学)



・ヤマノイモ・オニドコロ

ヤマノイモの種を上から落としてみるとグライダーのように滑空する。オニドコロの種はクルクル回転しながら落下する。しかしいくら回転しても、無風のときは真下に落ちるばかり。両者と一緒に落としてみると、オニドコロのほうがずっと早く地面に達し、風が強くないと遠くまで運ばれない。ヤマノイモの果実は下向きで、オニドコロは上向き。しかも殻は全開せず、先端から3分の1ほどだけ開く。その中に入っている種は重力だけではそこから出られない。殻から種を吹き飛ばせるほどの風を待っているのだ。出口が上を向いている理由

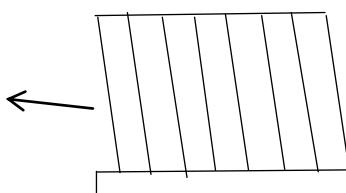


・ツチアケビ

ツチアケビは鳥に種子散布を託していることが明らかとなった。

この発見は、世界でも初めてのラン科植物における動物による種子散布の報告となる。

2015年5月5日 英国科学誌「Nature Plants」



種の不思議について、ほんの
ひとかじりを紹介しました。
皆さんのが更に興味を持っていた
だくきっかけになれば幸いです。



カラスムギの芒は水にぬれて動く イヌムギとカラスムギの芒で作ったアメンボ